

前半 認知症高齢者の食べる喜びを支えるケア ～多職種協働と歯科医療への期待～

東京 10/14日

認知症高齢者数は年々増加し、日本では2025年に700万人、世界では2050年に1億3千万人に達すると推計されています。

認知症の進行に伴い、食べることが困難になっていきます。しかし、摂食・咀嚼・嚥下機能の加齢変化や認知症の病態を踏まえた上で、口腔環境や姿勢を整えたり、見た目にも美味しい五感に響く食事を提供するなどの多職種協働によるきめ細かいケアによって、最期まで食べる喜びを支えることができます。

りわけ口腔環境を整えるために必要な機能的・器質的口腔ケアは、認知症の初期から終末期に至るまで重要であることは言うまでもありません。また昨今、このことが広く認識され、歯科医療に対する期待はますます高まっているところです。

セミナー当日は体験型の演習を交えながら、実践に役立つケアスキルについてもご紹介します。



三浦留美先生

北海道医療大学看護福祉学部 教授

後半 口から支える健康長寿 ～チーム医療の実践から学ぶこと～

東京 10/14日

超高齢社会を迎え、皆様の診療現場にもご高齢の患者さんが増えてきているのではないのでしょうか？ 一般の患者さんにもそうですが、特に歯科衛生士として関わる時に気をつけておきたい「薬剤」のこと「検査値」のこと等、歯科衛生士が身につけておきたいけれど、なかなか習得のできない事項を中心に学んでいきましょう。私たちが大学病院で、日ごろ行っているチーム医療での実践を踏まえながら、お話したいと思います。

※参加者全員に講演テキストとして「口から支える健康長寿」を進呈いたします



三浦留美先生

岡山大学病院 医療技術部 歯科衛生士室
歯科衛生士長

参加費	(税込)
友の会 本人	3,240円
友の会 スタッフ(院長が一般会員)	6,480円
未入会	17,280円